

地域社会に貢献する農業をめざして (コーワン株式会社)

<法人の概要>

所在地：岡山県備前市（農地は瀬戸内市長船町「瀬戸内フルーツガーデン」）

設 立：昭和31年7月3日

資本金：2,000万円 売上高：約50億円（平成25年）
（うち農業関連事業：1,250万円）

役 員：4名

従業員数：約650名、うち農業従事者6名

経営面積：約1ha 営農作物：イチゴ、ブルーベリー

農業開始時期：平成22年10月



農園の全景

<農業参入に至った経緯・動機>

- ・会社として、日本の農業を元気づける取組をしたい。
- ・地域社会に貢献したい。
- ・農業を通じて定年後の高齢者が働ける場を設けたい。

<農業参入することを決めてから営農開始まで>

- ・農地の確保は、事業所に近いところを選択した。（本社は備前市であるが、農園を管理する第二事業部企画開発推進室の営業所は瀬戸内市に位置する。）
- ・作物の選定は、周辺農家との競合に配慮して、近辺で作られていないブルーベリー、イチゴとした。
- ・当初（平成22年）はブルーベリーの栽培を開始し、平成24年からイチゴのハウス栽培に取り組んでいる。（岡山県方式のイチゴ高設栽培施設「はればれプラント」）
- ・始めは手探りの状態であったが、地元企業、瀬戸内市、農業普及指導センター等の協力を得て営農開始に至った。

<営農開始から現在まで>

- ・農産物の生産のみでは収益の向上が難しいことから、観光農園を柱としてカフェや直売所を併設している。
- ・観光農園である「瀬戸内フルーツガーデン」では、イチゴ狩り、ブルーベリー狩りができる。
- ・観光農園の入園料金を低く抑えて地元のリピーターの確保に努めている。
- ・関西方面の旅行会社に働きかけて観光農園のPRを行っている。
- ・一部の農産物は、近隣の菓子メーカー等に販売している。
- ・栽培技術については、農業普及指導センターの指導を定期的に受けている。

<今後の農業経営の展開方向>

- ・過去のデータに基づいて、安定生産体制の確立に努めるとともに、イチゴの裏作等について検討する。
- ・観光農園に併設するカフェや直売所を有効に活用するため、カフェメニューや販売品目の見直しを行う。
- ・いちごラスクの加工委託など、地域と連携した6次産業化を進める。
- ・地域の憩いの場として農園が活用されるよう、体験農園の整備やイベント企画等の提案を行う。

<今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス>

- ・農業参入に当たっては、できるだけ詳細な計画づくりが必要なため、明確なビジョンを持って参入しましょう。（途中で計画を変更する場合には、手続等に相当の期間を要することもあるので、注意してください。）
- ・農業を行うことは自然と共存することでもあります。計画どおりにならないこともあるので、長期的な視点が必要です。



生育中のイチゴ